

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

平成 21 年 3 月

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

◆ はじめに

もうすぐ口頭試験の合格発表です。私の技術士第二次試験へのチャレンジは今回で2回目となります。正直、くじけそうになり、もう受験をやめようと思ったこともあります。しかし、家族をはじめ、たくさんの方のおかげであきらめずに受験を続けることができました。私は、こうした方々への恩返しの意味も含めて体験記を綴ることにしました。

私は、地元工業高校の土木科を卒業し、地元建設会社に就職したごくごく普通の技術者です。この体験記を読んで頂ければ分かると思いますが、恥ずかしながら技術士とは何ぞや？というところからスタートしています。いざ、受験しようにも、まわりに技術士の方はいない、情報はない、どうしたらいいのか分からない、という状況にありました。

APECさんの掲示板では、当時の私と同じような悩みを抱えている技術者の方の書き込みが見られます。私は、こうした方々に対して、「大丈夫です！私のような技術者でも合格できたんですから！」と声を大にして言いたいと思います。

技術士受験で、一番大切なことは「いかにモチベーションを維持するか」ということであると思います。一次試験、二次の筆記試験、そして口頭試験と、とにかく長い期間を要する試験であることがその理由です。

この長い期間を戦う受験生にとって、この体験記がほんのわずかでも励みになれば幸いです。

平成 21 年 2 月 23 日

コチタロ

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

自己紹介

HN：コチタロ

性別：男性

経歴：1975年生まれ 秋田県某市出身。平成5年3月地元工業高校（土木科）卒業。同年4月、地元建設会社に就職。アスファルトプラントでの試験、材料特性等の研究、現場での施工管理、積算などに従事。平成19年には建設コンサルタントに転職。現在は河川の調査、計画分野に携わっている。

妻、父母、祖母、そして愛犬のDIVAと5人1匹家族。

後日談であるが、愛犬DIVAは、口頭試験の合格発表日である3/6のPM3:25に息を引き取った。私なりにいろいろな思いはあるが、前日から危篤状態だったDIVAは、一人で負を背負って旅立ったように思う。私たち家族は、DIVAと出会うことができ、幸せだった。DIVA、ありがとう。

◇ 平成14年度

一級土木施工管理技士・・・○

いよいよ私も、一級土木施工管理技士を受験できる年齢となった。どうやら一級土木を取得すると、会社からは○万円／月の資格手当てが出るらしい。これは取るしかない！

受験勉強にはけっこう真剣に取り組んだ。その理由としては、もちろん資格手当てがほしいということもあったのだが、一級土木を取得していない施工技術者は一人の技術者として扱ってもらえないという現実があったからである。

結果は、何とか合格できた。

◇ 平成15年度

一級舗装施工管理技術者・・・○

一級土木施工管理技士取得を皮切りに、私は比較的大きな現場を任されるようになっていた。初めて経験する工種を手がける時などは、プレッシャーで眠れない夜も多くあった。しかし、こうした経験とプレッシャーの積み重ねで技術者として確実に成長することができたと考えている。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

今年は、比較的難関と言われる一級舗装施工管理技術者にチャレンジしようと心に決めていた。会社でも、経営事項審査の加点になること、近い将来には入札で加点項目として考慮されるという見込みであることなどから、受験を強く勧めていた。

私にはプラスの要素として、アスファルトプラントにおいて材料特性の研究等の経験があった。もちろん勉強もしたが、こうした経験がプラスに大きく作用し、何とか合格することができた。

この頃から何となくではあるが、資格取得にあたって勉強すること、また取得することによって発注者をはじめ、まわりに方々の信用が高まるということを実感し、インセンティブが生まれていたように思う。

◇ 平成 16 年度

何も受験せず

この年は、まわりを振り返るヒマなどないくらい、ひたすら業務に忙殺された。

そのような中、発注者の監督員の方との打合せが終わったある時、余談で次のような会話をした。

監督員：コチタロさん、一級土木や一級舗装を取得されているようだけど、技術士を取得しようという気はないの？

私：ぎじゅつし、、、ですか？申し訳ありません、、、ぎじゅつして何ですか？

監督員：あ～、分からないですか。技術士というのは、建設部門などを含む科学技術における最高峰の資格なんです。現状では、コンサルタントの方が多く取得している資格です。しかし、これからは性能規定化に伴い、施工者の高い技術提案力、そしてこれまで以上の現場マネジメント能力が求められる時代になります。つまり、施工者の方にとっても必要不可欠になる資格だと思います。

私：はい、、、何となくわかりました。

監督員：ちなみに、私も技術士を目指しているんですよ。今、技術士補としていろいろと勉強しています。

私：そうなんですかあ。私なりにもいろいろと調べてみます。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

私が技術士というものを知った日であった。技術士というくらいだから、技術系の資格なんだろうなあ、というくらいの認識だった。そればかりか、これまで一級土木や一級舗装の合格を重ねてきた私は、監督員がそこまで言うのなら“ちょちょいのちょい”と取得してやろう、という気でさえいた。

しばらくは業務に追われ、技術士のことは忘れてしまっていた。業務が落ち着いたある日、「そういえば、、、」と技術士をネットで調べてみた。一次試験と二次試験があるのかあ。一次試験は択一、二次試験は半端ない量の論文、、、。一次試験の問題も高卒の私にとっては難解だあ、、、。何だかムリっぽいなあ、、、。さらに知り合いからはこうも言われた。「技術士は、一級土木や一級舗装とはレベルが違う。われわれのような地方の一般技術者の取得はムリだろう」

普通はここで諦めるかもしれない。しかし、私は天邪鬼的なところがあって、人からムリだと言われれば、その方向に突き進みたくなるのである。

「だったら、とってやろうじゃないか!!!」

これが私の技術士受験の「キックオフ」だった。

◇ 平成 17 年度

技術士第一次試験・・・・・・○

平成 17 年 6 月

まずは一次試験に合格して、「技術士補」と名刺に書きたい！この目標のもと、勉強を始めた。

書籍は 5 冊ほど購入した。基礎科目については、ほんとうにワケがわからない、、、。過去問にチャレンジしても、合格レベルどころか受験をやめた方がいいと言われそうな結果であった。

諦めそうになった時、決まって思い出したのは、「技術士は、一級土木や一級舗装とはレベルが違う。われわれのような地方の一般技術者の取得はムリだろう。」という知り合いの言葉だった。

平成 17 年 7 月

絶対にやってやる！絶対に技術士になってやる！

7 月頃からは、早朝、昼休み、深夜と、短い時間であっても、とにかく有効

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

に使うように心がけた。

一方、勉強して理解を深めていくと、ちょっとした喜びを感じている自分がいることに気づいた。学生時代に勉強が大嫌いだった自分に、今さらながら芽生えた知識欲なのか。

平成 17 年 8 月

この年は監理技術者として、けっこう規模の大きい橋梁の耐震補強、改修工事の現場を手がけていた。この手の工事は初めての経験であり、四苦八苦しながら現場をすすめていた。業務は 8 月頃から多忙を極めていたが、メリットもあった。それは業務内容そのものが勉強に大きく直結する点である。

平成 17 年 9 月

結局、基礎科目については、分からないものは分からない。APEC さんのサイトにも、ある程度得点できる分野を絞って勉強することも大切だとある。そうだ、何も手を広げすぎる必要はない。適性については、何とかなるだろう。あともう少しだ、頑張ろう。

平成 17 年 10 月 10 日

こうして、いよいよ試験日を迎える。現場の繁忙期でもあったが、何とか休みを確保し、仙台市へ。

適正は感触がよかったが、基礎と専門については、問題を開いた瞬間、イヤな汗が出た。「こうきたかあ」的な問題が多い。しかし、迷っているヒマはない。どうにか道筋をつけて、マークしないとイケない。

試験終了。感触はギリギリといったところ。ん～、微妙だあ。

APEC さんのサイトでは、当日から掲示板が盛り上がる。どれどれ、答え合わせをしてみると、、何とかギリギリセーフ。ひょっとしてひょっとするか！？

技術士会による正答が発表されたが、答えはほぼ同様であった。しかし、回答数が 1 問足りないことが発覚。その分、回答の順序や番号がズレていなければいいが、、、。結局、合格発表日までこの不安が常に付きまとうことになった。

平成 17 年 12 月 25 日

合格発表日は、眠れずに 4 時頃から PC の前にいた。1 分前からは「更新」を連打（笑）。お、リンクが貼られた。建設部門、仙台の F と。スクロールする手が震える。私の番号は、、ある～～～！！あったとお～～～！！合格だあ～～～！！家の中を走り回った。嬉しかった。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

平成 18 年 1 月

喜びもつかの間、技術士補登録をしようと思い、手引きを確認すると、指導技術士が必要とあった。ところが、私のまわりには技術士はいない。さて、どうしようか？

そこへ、先日メールで合格の報告をした“私に技術士受験をすすめてくれた発注者の監督員の方”から返信がきた。メールには、「指導技術士がいなければ、県の技術士会に相談してみるといいですよ。決して名前だけの指導技術士ではなく、いおいろな相談なども受け付けてくれる技術士が見つかると思いますよ」と書かれていた。

私は早速、県の技術士会へ電話をした。すると、快く指導技術士を引き受けて下さるとのこと。その方も名前だけの指導技術士になることを嫌い、直接お会いして話をした上で手続きを行うというのを条件として提示された。

平成 18 年 2 月

こうして何とか 2 月には、「技術士補」と書かれた名刺が出来上がった。

私事ではあるが、この 2 月に妻にプロポーズした。よし、これからの生活のためにも、ますます頑張らねばならない。

◇ 平成 18 年度

コンクリート診断士・・・×

平成 18 年 4 月

ほんとうはすぐに二次試験を受けるべきだったのかもしれない。しかし、コンクリート診断士という資格の取得を優先させるべきという強い思いがあった。その理由は、自分が手がけた現場でひび割れが発生し、その対応をしている時にその必要性を強く実感したからである。

現場で発生したひび割れの原因や今後の対応方針について発注者と協議等を行っているときである。どうも担当の監督員は、私が提示した報告書の内容に納得がいかない様子であった。私も必至で勉強し、理論武装しているつもりであったが、掘り下げた部分で突っ込まれると言葉につまってしまう。そこで知り合いをとおして、あるコンクリート診断士の方を紹介してもらった。現場でお会いして、その真摯な姿勢には少々驚いた。私は、コンクリート診断士というくらいなので、ちょっと威張った感じのイメージを勝手に持っていた。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

その後、報告書をまとめて、監督員との打合せに同行してもらった。すると、その内容に監督員は「はい、はい、そうですかぁ。」とひたすらうなずいているのではないか。これにはほんとうに驚き、同時に感銘を受けた。

こうしたことから、まずはコンクリート診断士の取得に専念しようと思ったのである。もちろん、技術士第二次試験の勉強にもなるだろう。

平成 18 年 6 月

この時期に初めてブログを開設した。漠然とした理由だが、同じような目標に向かっていく方々と情報交換などできればいいと考えていた。

(開設当初のブログ:建設エンジニアの峠越え→http://blog.goo.ne.jp/coch_3267)

勉強は、早朝、現場でのスキマ時間、深夜と時間は惜しまなかった。コンクリートの勉強は楽しかった。昨日勉強した内容が、翌日現場で活きるというケースもあり、吸収した知識をすぐに技術に変換できる場合もあったからである。また、九州人さんをはじめ、コンクリート診断士を目指す方々と言葉を交わす機会もできた。

コンクリート診断士の試験は、択一と記述の 2 つがある。択一については、70%が足切りといわれている。一方、記述については、診断士としての心構え(いわゆる倫理や社会一般的なもの)と実際の現場の写真から自分なりの考察をまとめるという 2 問に答える必要があり、採点基準はまったく不明である。

苦労したのは、技術論文に対してのアプローチである。これは今後受けるであろう技術士第二次試験にも言えることだった。それまで、技術論文というものを書いたことがなかった私にとって、問題を読み、構成を考えて書き上げていくことは、簡単ではなかった。

トレーニングとしては、択一は過去問の繰り返し、記述は実践練習を主とした。実践練習とは、会社の後輩に付き合ってもらい、地方高規格の構造物を見たり、ジョギング途中の河川の樋管、樋門などを見たりして、自分なりに診断を行うことである。今、思うところこのトレーニングはとても有効であったと考えている。もちろんタダだし、何より生の構造物を自分で調べて、考えて、まとめるというプロセスを経験できるからである。

平成 18 年 7 月

こうした繰り返りで試験当日を迎えた。まずは午前中の択一。いやぁ、まいった、難しい。明確に答えられる問題があまりに少ない。気持ちが焦る。それでも、何とか消去法でつぶして回答した。どうだろう、70%に届いているのだろうか。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

午後は、いよいよ記述。予想は当たるわけではなく、見事に想定外の問題。焦りつつも、キーワードに気をつけてなぐり書きした。

終了後、答え合わせをしてみると、択一は7割ちょうど。しかし、記述は正直分からなかった。

平成 18 年 8 月

いよいよ合格発表日。HPには私の番号はなかった、、、。

何でだ、、、何が悪いんだ、、、そもそも私はこの試験に挑むレベルの技術者ではないのかもしれない、、、

しかし、救いがあった。ブログに寄せられるコメントの数々である。「また来年があります。一緒に頑張りましょう！」の主旨の言葉は、涙が出るくらい嬉しかったものである。つくづくブログを開設してよかったと思った瞬間である。

平成 18 年 9 月

ここからは早かった。すでに来年の目標を決めた。それは、「技術士第二次試験とコンクリート診断士のダブル取得」である。そして、技術士の勉強を少しずつ始めた。

◇ 平成 19 年度

コンクリート診断士・・・・・・・・○ 技術士第二次試験（筆記）・・・・×

平成 19 年 4 月

技術士の勉強をして痛感したことは、私の論文がまったくくなっていないことであった。同時に、なぜコンクリート診断士がダメであったのか、このとき明確となった。まずはきちんとした技術論文を書けなければならない。課題は山積していた。

ある時、ブログを通じて交流があったヤマトさんからあの PMP さんをご紹介頂き、「講座にくるのであれば、一般部門でも見てあげるよ」という言葉をかけて頂いた。正直、迷った。経済的な問題もあったが、総監受講生の方に混じって得るものがあるのか。ほんとうに実力が向上するのだろうか。しかし、私は受講を決意した。妻に相談し、了承を得た。絶対に合格するんだ！私は、あの言葉を思い出し、自分を奮い立たせた。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

「技術士は、一級土木や一級舗装とはレベルが違う。われわれのような地方の一般技術者の取得はムリだろう」

余談であるが、この4月に転職をした。いろいろ悩んだ結果である。細かいことはいろいろあるが、大きなポイントは技術者としての成長である。

PMPさんの講座を受けて、フォトリディングやマインドマップといったツールに出会った。これは大きな収穫だった。特にマインドマップは、論文構成を考える上で、この上ない武器となった。

平成 19 年 5 月

技術士とコンクリート診断士のダブル受験なので、しっかりとしたスケジュールを組む必要があった。まずは技術士中心とし、週1日はコンクリート診断士に充てた。無我夢中だった。当然、結婚1年目の妻には迷惑をかけた。日常のコミュニケーション不足はもちろんのこと、映画や旅行などにも行けない。それでも、イヤな顔をせず、勉強に打ちこめる環境をつくってもらった。申し訳ない、、、。妻のためにも、絶対に合格するんだ！

平成 19 年 7 月

7月となり、コンクリート診断士の試験日。午前中の択一問題を見て、ビックリした。昨年よりも難易度が上がっている、、、。少し冷静になると、大丈夫かな、、、。よし、分かる、分かる。最後に2回ほどチェックをして終了。おそらく大丈夫だと思った。続いて午後の記述。すぐに2問ともマインドマップを描いた。よし、頭にあるキーワードでイける。あとは書くだけだ。こちらもチェックをする時間もあり終了。よし、大丈夫かな。

さすがに、試験当日の夜だけはビールを飲み、すぐに就寝した。技術士筆記試験まであと2週間である。明日からまた勉強再開するでしょう。

残る2週間は、実際に手で書く練習をした。この時、尋常ではない手の疲れとともに露呈したのが、想定問題での練習不足と手書き練習不足であった。というのも、それまでは過去問中心にトレーニングしており、あまり想定問題を重視してこなかった。私は、見たことのない問題を目の前に、マインドマップを描き、手書きの論文を書くということがいかに難しいことであるかを痛感した。

とは言え、今さら諦めるわけにはいかない。死にものぐるいでやるしかなかった。

Cochtaros' 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

平成 19 年 8 月

8 月に入り、技術士第二次試験当日。まずは午前中の建設一般。どれどれ、「地方の活性化、、、」予想的中だ！これは書けるぞ。最後の 2 行ほど残し、確認はもちろん、赤鉛筆で丁寧にアンダーラインをひく余裕すらあった。まずはクリアかな、と思った。続いて午後の専門。狙いのコンクリートは、、何！？非破壊試験を 2 つ！？ええっ、そうきたか、、思い出せない、、これはパスだ。あと書けそうなのは、リサイクル、原価管理、入札制度絡みの 2 つだ。パッと骨子が浮かぶのは、入札制度絡みの 2 つ。よし、これでいこう。品質確保とダンピング関連なのだが、書いているうちに、似たりよったりの論文になった。どうにか体裁を整えて、部分的な確認とアンダーラインをひいて終了。

いやあ、専門はやばい。仮に論文自体がよくても、同じような内容だけに明らかに視野が狭いという印象を持つだろう。でも、やるだけやった。あとは天に任せよう。妻には、自信がない旨を伝えた。出来は別として、復元論文は早めに作成した。

そして、いよいよコンクリート診断士の合格発表日を迎えた。私の番号は、、、**あった！やった、合格だ！！！！いやあ、嬉しい！**ブログにもたくさんのお祝いコメントを頂いた。あとは、技術士かあ、、、。しばらくは、試験を忘れて、家族孝行しよう。

平成 19 年 10 月

時は過ぎるが、技術的体験論文を作成するモチベーションが上がらないまま、10 月末の合格発表日を迎えた。ダメだろうと思いつつ、朝 5 時の 5 分前から PC 前で待機。いつものごとく「更新」を連打。いよいよ画面が変わる。建設部門、、、施工計画、施工設備及び積算と、、、スクロールしていき、**私の番号は、、、ない、、、。やはり、ダメだった、、、。**後日、成績通知書を見てさらにショックを受けた。何と「**失格**」であった。どうやら、専門の問題番号を書き損じていたらしいのだ。何とも言えない脱力感に襲われた。長い道のりをずっと歩いてきて、最後にそれをふいにしてしまったかのような結果を受けて、この時はもう受験をやめようかな、と思った。

平成 20 年 1 月

ある夜のこと、ヤマトさんと skype でチャットをする機会があった。そこでヤマトさんから「コチタロさん、今年の結果をまず受け入れてください。そして、もし番号をきちんと書いていたら合格していたかもしれない、とは絶対に思わないようにしてください。つまり、失格ではなく不合格とすることが大切です。」と言われた。この言葉には目が覚める思いがした。どこかでそう思っていたのだ。だから、やり切れない思いもあるのだ。そう、私は不合格だ。もう一度仕切り直しだ！コンクリート診断士もとったし、あとは技術士に専念でき

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

るではないか。

◇ 平成 20 年度

技術士第二次試験（筆記）・・・○

技術士第二次試験（口頭）・・・○

平成 20 年 4 月

ある日のこと、以前からブログを拝見していた Hero さんの HP（Hero の技術士塾）を見た。中身を見ると、Hero さんの真摯な姿勢がひしひしと伝わってくる。どうやら、論文は手書きを重視しているらしい。そこで、私の思いなどをメールに書き、Hero さんに送った。すぐにメールは返ってきた。内容は割愛するが、「この人にいろいろと教えてもらおう」と思った。幸い、Hero さんは PMP さんともお知り合いであるので、私から PMP さんにその旨を報告した。PMP さんは「よし、今年こそ合格して、総監のときはまた講座においで！」と言って頂いた。

平成 20 年 5 月

講座内容については、期待したとおりのものであった。Hero さん独自の How To とすべて手書きによる指導などがあり、明らかに技術論文のアプローチが変わった。

平成 20 年 7 月

相変わらず、手書きの論文を書いては郵送し、添削結果を返信して頂き、skype 講座を受けるといったパターンを繰り返していた。少しは自分の言いたいこと、言うべきことが論文で表現できるようになったような気がする。

とは言え、試験直前の 7 月末まで合格点をとることができていなかった出来損ない受講生だった私である、、、。

平成 20 年 8 月

こうして本番に臨むまでは、かなりの論文を書いた。よし、あとはやるだけだ！

試験当日、妻に「今までありがとう、頑張ってくるよ」言った。妻はただ「頑張ってきてね」と言ってくれた。ここ数年はほんとうに迷惑をかけた。大好きな“ねぶた”にも連れて行ってない。絶対に今年合格して、来年は連れていくからね。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

2回目ということもあり、試験会場に入っても変な緊張感はない。今さら資料を見ても頭には入らないので、机で精神統一をする。試験官が入室してきた。いよいよだ。

まずは午前の建設一般。今年は多くの受験生が“環境”にヤマをはってきているはずだ。もちろん、私もその一人だ。これほど注目されているキーワードをあえて問題にするのか、という疑問はどこかにあった。問題が配られて、試験開始の合図があり、ページをめくる。これには青ざめた、、、。一つはアセットマネジメント、、、！？一つは技術力の維持及び向上、、、！？一気に血の気が引くのが分かる。アセットマネジメントについては、要求されている内容を網羅するだけの知識が体系化されていない。ここは技術力の維持及び向上でいくしかない。どういうアプローチでいこうか、、、。そうだ、発注者と受注者に分けて、入札制度等を絡めてみるか。CMの活用もいいかもしれない。よし、これだ。マインドマップを描き、一気に書き上げた。ほぼ予定とおりの論文ができた感じである。例のごとく、2回ほどのチェックと赤鉛筆のアンダーラインを書いて、と。

続いて午後の専門。問題のページをめくった瞬間、コンクリートはイケると思った。あと1つはどれでいこうかと悩んだ。実行予算、積算などあったが、目にとまったのはCMに関する問題。すでに建設一般でさわりだけを述べていたが、これでいこうと思った。書いているうちに、別の問題を選択すればよかったと思った場面もあったが、もう後戻りはできなかった。

終了後、感触としては微妙であった。これでダメであれば、専門のCMに関するものだ。でも、まずは終わった。妻に改めて「ありがとう」を早く言いたかった。

8月は、復元論文だけ仕上げ、しばらくはゆっくり休んだ。

平成 20 年 9 月

昨年と違ったのは、この9月上旬くらいから技術的体験論文に手をつける気になったことである。おおよそ9月いっぱいでおおよそその形にして寝かせていた。

平成 20 年 10 月 27 日

いよいよ合格発表日となった。今年もダメだろうか。いや、そんなことは考えないようにしよう。今まで頑張ってきた。自分を信じてみよう。AM5:00から日本技術士会のHPにアクセスするものの、まったくつながらない。どうやらサーバーがダウンしているようだ。結局、入社前に確認することはできなかった。入社後、ちよくちよくアクセスしていたその時である。ん！？つながる、、、。ヤ

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

ばい、つながった！（何で？）まさか職場でこのドキドキ感を味わうことになるとは、、、スクロールする手が震えている。私の番号は、、、**あった！あった！あった！信じられない！！合格だあ〜〜〜！！**

すぐに妻へ電話をかける。合格を知らせると、妻の声が裏返っていた。ちょっとだけウルウルきた。まだ早い、涙は最終合格してからだ！

HeroさんとPMPさんには直接電話で報告し、技術的体験論文の添削をお願いした。この日からまた戦いが始まった。

平成 20 年 11 月

技術的体験論文については、PMPさんからかなりのダメ出しをうけた。合格発表後2週間という限られた時間で提出しなければならず、短時間で“修正しては送り”を繰り返し、結局Ver.7で提出する運びとなった。（PMPさん、その節はたいへんお世話になりました）

その後はひたすら想定問答の作成である。これが日に日に増殖を続けていく。割り切ろうにも、精神的に不安があるため、抑えが効かない。結局160問くらいは作成した。

口頭試験は、実際に自分の頭で考えて、口で答える試験である。そのため、多くの方が口頭模擬の必要性を訴える。私は、APECさんの東京セミナー(11/30)に申し込んだ。当面はこれに照準を合わせて仕上げなければならない。

準備中は、PMPさんをはじめ、九州人さん、HILLさん、そして妻からも口頭模擬を実施してもらった。時にケチョンケチョンにされたが、回数をこなす度に少しずつ慣れていった。この中でも、妻の模擬が一番厳しかったと記憶している（笑）。

そして迎えたAPECさんの口頭模擬セミナー。参加者は8名ほどであった。私と同じくらいの年齢の方が2名ほどいたが、あとの方は私よりも上だろうと思った。ロールプレイや模擬試験の実施は間違いなく有効なものであった。さらに他の人の模擬を見学できるということも参考になった。私の模擬の結果については、一応OKを頂くことができた。あとは、専門知識の部分でアドバイスされた部分の補強だ。あと2週間、頑張りぬこう。

余談だが、口頭試験の勉強期間中ながら、急きょブログを移行することにした。どうもこちらの方が使い勝手はいいようである。

（現在のブログタイトル:Cocotaro's BLOG→<http://cochtaro.blog14.fc2.com/>）

平成 20 年 12 月 15 日（口頭試験前日）

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

いよいよ口頭試験である。試験日が12月16日の火曜日であるため、地方に住む私としては前日から休暇をとり、上京する必要がある。今回は東京にいる弟にも会ってこようと思い、妻も同行することにした。

朝8:00に家から歩いて駅に向かう。前日から雪が降っており、路面が滑りやすくなっていた。しかし、受験生であるため、決して滑るわけにはいかない！(笑)かなり気を使って歩いた。

ローカル線に乗り込み、乗り換えする駅に着く直前に電話がなった。何とPMPさんである。電車の中だったので、駅に着いてからこちらから電話をかけた。

私：PMPさん、おはようございます。

PMP氏：いよいよだね！何だかこっちまで緊張するなあ。まあ、緊張するなという方がムリなんだけど、試験官の方とコミュニケーションをとるということを大事にしてよ！

私：ありがとうございます！頑張ってきます！

PMP氏：頑張っておいで！

とまあ、励まして頂いた。嬉しかった。そして、秋田駅まで移動して新幹線に乗り継ぐ。新幹線の中では、想定問答集のチェックをする。明日の今頃は試験が終わっている。もう一息だ、頑張ろう。

夕方前には東京着。すぐに山の手線で渋谷へ移動。妻は弟宅へ移動する。私はHILLさんのアドバイスもあり、フォーラムエイトの下見に行くことにした。渋谷は何回も来たことがあるので、スムーズに移動できた。そして、フォーラムエイトもすぐに見つけることができた。これがフォーラムエイトかあ。一気に緊張感が高まる。せっかく来たんだ。しっかり中まで見ていこう。受付とされている7Fに移動してみたが、中はガランとしている。「(社)日本技術会様」という掲示はあちこちにされていたが、人の影はなかった。今日は試験がない日なのかもしれないと思った。

その後は、弟宅に移動し、皆で晩御飯を食べた。食後は想定問答集をチェックしつつ、妻へいつものプレゼンを聞いてもらう。経歴と技術的体験論文で9分40秒。よし、このペースで大丈夫だ。

あまりやってもかえって緊張をあおるだけなので、そこそこにして就寝することにした。目が覚めると試験当日である。いよいよ勝負の時だ！

平成20年12月16日(口答試験当日)

一度は寝たものの、1~2時間ごとに目が覚めてしまう。明らかに緊張してい

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

るなあ、、、。

7:00 頃には起きてシャワーを浴びて朝食を食べた。こればかりはしっかりと摂らないといけない。何せ試験は 11:45 からときているから。それにしても緊張する。この後に及んで「想定外の質問がきたらどうしようか、、、」など考える。今でも妻に「一番緊張していたのは試験日の朝だね」と言われるくらい当日の朝は緊張していた。

試験の前にバルさんとお会いすることになっている。ブログを開設していなかったらこうした機会はなかったと思う。こう考えると、いわゆる「第3の場」というものがいかに有意義で大切なものかを実感する。バルさんが 10:00 頃を目安にフォーラムエイトにきてくれるということだったので、9:30 頃に出るとしよう。

どれ、そろそろ出陣た！

私：行ってくるよ。

妻：大丈夫、普段通りにやれば絶対合格だから。

妻にはほんとうに感謝している。「ありがとう」

渋谷駅に着いたのが、9:45 頃。フォーラムエイトは確認済みなので、安心して歩くことができた。やはり昨日、フォーラムエイトの場所を確認していたよかった。

フォーラムエイトに着き、7F に行き、受付を済ませる。どれどれ、バルさんに連絡を、、げえ、すでにバルさんからメールと電話が入ってるう（汗）携帯をバイブにしてバックに入れていたため、かなり失礼なことをしたようだ。メールの内容からするとすでに待合室にいらっしゃるようである。すぐに電話をかける。「もしもし、、、」といったところで、待合室からバルさんが出てきてくれた。結局、2 人で話しこめるところがないようなので、待合室に座って話をさせて頂くことになった。

バルさんもご自分のブログに書かれていたが、ヒソヒソと話したつもりでも他の受験者の方々の迷惑になっていたのかもしれない。こちらは少し反省しようと思う。

話の中でバルさんと同い年だということが判明した。バルさんは、話した感じ、そしてすでに 2 部門の技術士を保有されていることなどから、高いスキルも持ち主であることは容易に想像できた。また、私だけかもしれないが、初め

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

てお会いした割にすう～とお話できたように思う。

すぐに時間が経ち、私の試験の30分前となった時点で、バルさんから「私は外に出ます。頑張ってくださいね。」とおっしゃって頂いた。試験前の緊張した時間であったが、ほんとうに楽しく充実した時間でもあった。今度はぜひともゆっくりとお会いしたいと思う。

どれ、最終確認するか、と思ったものの、待合室の空間ではとても集中できそうにない。結局、想定問答集を開いているだけになってしまった。

いよいよ試験の10分前になった。アナウンスでは「5分前から試験室の前で待機してください」とされている。もう行くでしょう。

試験室の前に行くと、すでに他の受験者の方も待機しているようだ。椅子に座ると、ちょうど真向かいに50代の受験者が同じように座っていた。あまりに距離が近いので、思わず「緊張しますねえ」と話しかけてしまった。その方も「そうですねえ」とかなり緊張されている様子である。「お互いに頑張りましょうね」と会話を結んだ。その時だった。試験室から試験官らしき方が出てきて、「コチタロさんですか？」と聞く。「はい、そうです。」と答えると、「入ってください。」とその方は中に入ってしまった。

心拍数が一気に上がっていくのが分かる。

【試験開始・経歴及び応用能力】

試験官はお二方ともに50代と思われた。印象としては、とても真摯な方々だった。

私 : 失礼します。(つつかかと歩いて椅子の左側に立った上で) 本日はよろしくお願いたします。

試験官A : はい、お座りください。荷物はそこの椅子に置いてください。

私 : はい。

試験官A : はじめに全体の流れを説明いたします。まず経歴を説明して頂いてこちらから質問いたします。

私 : はい。

試験官A : 続いて、技術的体験論文の業務1について説明して頂いて、こちらから質問をいたします。

私 : はい。

試験官A : さらに業務2について説明して頂いて、こちらから質問をさせていただきます。

私 : はい。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

試験官 A : それから、専門知識についても質問をします。最後に技術士法などについて質問をして終わりとさせていただきます。

私 : はい。

試験官 A : という流れで進めていきます。え～、だいぶ肩に力が入っているようですねえ。まず力を抜いてですね、今日は自分の苦労話、自慢話をするくらいの気持ちでいきましょう。

私 : はい。よろしく願いいたします。

試験官 A : ではまず、経歴について説明してください。

私 : 平成 5 年に〇〇〇〇に入社しました。最初の 2 年間は、自社のプラントでアスファルト混合物の試験、分析、研究を担当いたしました。現場管理を担当する前にこのような材料特性を学べたことはたいへん貴重な経験であったと考えております。(試験官 A : うんうんとうなずく)

続く 1 年間は、工事係として舗装工事の品質管理、安全管理を担当いたしました。

慣れない現場管理でたいへん苦労しましたが、ここで現場の重要性、やりがいを感じることができました。

続く 2 年 8 ヶ月は、工事主任として建築外溝工事、通信管路工事などを担当いたしました。建築関係や通信関係の工事を経験したことで、技術的な視野が広がり、また様々な技術者との交流を持てたことなど貴重な経験であったと考えております。(試験官 A : うんうんとうなずく)

続く 8 年 4 ヶ月は、作業所長として歩道改良工事、道路改築工事、舗装修繕工事、構造物補修工事、橋梁補修工事、国道維持工事等、主に国土交通省発注の直轄工事の施工計画立案、施工管理、原価管理を現場の最前線で担当いたしました。

また、最後の 1 年間は技術主任として積算業務も担当しております。ちなみに技術的体験論文は、ここでの業務を書かせて頂いております。

また、平成 18 年 1 月には技術士補登録をさせて頂いておりまして、指導技術士のもと、研鑽を図ってまいりました。(試験官 A : うんうんとうなずく)

平成 19 年 4 月には、自分の資質を高めるため、現在の建設コンサルタント会社に転職しました。そして、〇〇〇〇へ民間から技術員という立場で出向しております。ここでは、発注者の立場で工事管理を担当しております。

以上、簡単ではございますが、私の業務経歴について説明を終わります。

試験官 A : はい。ではいくつか質問をします。この〇〇〇〇という会社は道路や舗装が専門の会社ですか。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

- 私 : はい、道路、中でも舗装を得意としている会社です。
- 試験官 A : この秋田県〇〇〇市にプラントを持っている会社ですか。
- 私 : そうです。自社のプラントを保有しております。
- 試験官 A : あなたが工事係だった頃の話ですが、これは主に民間工事に携わっていたということですか。
- 私 : そうです。
- 試験官 A : 作業所長と書かれておりますが、これは官庁工事だったのですね。
- 私 : そうです。
- 試験官 A : これは CORINS で登録するときには、あなたは現場代理人として登録されたのですか。
- 私 : はい、現場代理人もしくは監理技術者として登録しております。(試験官 A : うんうんとうなずく)
- 試験官 A : 兼務されたということですか。
- 私 : はい、兼務をしたときもありましたが、どちらか片方を担当している場合が多いです。
- 試験官 A : はい、分かりました。ということは、あなたは主担当者として、発注者の技術担当者といろいろな協議を主体的に行ってきたということですね。
- 私 : はい。そういうことです。
- 試験官 A : それで、平成 19 年 4 月に〇〇〇〇という建設コンサルタントに転職していますよね。この会社は主にどんな分野を手がけられているのですか。
- 私 : 主に発注者支援業務を行っております。
- 試験官 A : あ～、出向されているわけですね。すると、調査や設計といった分野で支援されているのですか。
- 私 : 現在は、工事管理や施工管理を支援しております。
- 試験官 A : 工事管理ですね。すると、あなたの会社は、発注者支援としてかなり出向者を出されているのですか。
- 私 : はい、設計部署もごさいますが、発注者支援のウエイトが大きいです。
- 試験官 B : 発注者支援を行っているということですが、業務の指揮命令系統はどうなっていますか。
- 私 : はい、指揮命令系統は私の上に管理技術者がおりまして、業務指示は調査員から管理技術者、管理技術者から私に指示が出されます。(試験官 B : うんうんとうなずく)
- 試験官 B : ご自身はあくまで管理技術者からの指示で業務を行われているということですね。
- 私 : はい、指揮命令系統はそうっております。
- 試験官 A : もう、よろしいですか。(試験官 B に対して)
- 試験官 B : (うなずく)

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

【体系的専門知識及び技術に関する見識】

試験官 A : では、技術的体験論文の業務 1 について説明してください。

私 : (約 3 分で説明)

試験官 A : 現場外でコンクリートを打設したというお話ですが、これはどういうことですか。

私 : はい、現場近くにヤードを確保しまして、そこにあらかじめ型枠を組み、基礎コンクリートを打設します。そして、二次製品であるブロックを設置し、二次コンクリートを打設するといった工程をすべてヤード内で行いまして、現場ではこの組み合わせたものを設置するだけにしたという工法です。(試験官 A : うんうんとうなづく)

試験官 A : すると、通常は現場でやられる工程をそのヤードであらかじめ行ったということですね。

私 : そうということです。

試験官 A : 発注者から継目について何か注文はつきませんでしたか。

私 : それは目地のことでしょうか。

試験官 A : はい。

私 : 目地については一般的に 10m に 1 箇所設置します。今回の組合せを行ったものは 1 ブロックあたり 3m 程度ですので、目地の施工は通常通りに行っております。そういったことから、発注者側からも問題ないというご意見を頂いております。(試験官 A : うんうんとうなづく)

試験官 A : 業務 1 についてよろしいですか。(試験官 B に対して)

試験官 B : はい、結構です。

試験官 A : では、業務 2 について説明してください。

私 : (約 4 分で説明)

試験官 A : この橋脚の規模というか、大きさはどのくらいですか。小判型ですか。

私 : はい、小判型の橋脚でして、長径で約 6m、短径で 3m 程度です。

試験官 A : 耐震補強ということですが、橋脚自体に劣化は生じていたのですか。

私 : 具体的に劣化が生じているということはありませんでした。私自身は施工段階しか携わっておりませんが、設計成果を確認・照査したところ、地震に対する耐力が不足しており、補強が必要ということでありました。

試験官 A : これは河川の中、、、、濁水期の施工ですか。

私 : そうです。河川管理者や漁業組合との河川協議結果により、濁水期の施工が要求事項でありました。

試験官 A : 施工厚として、250mm ということですが、これは適当な厚さだと思いますか。

私 : はい、確かに設計者による構造計算の結果では妥当な数値というこ

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

とになると思います。しかし、施工者として思いますのは、非常に厳しい厚さであると考えております。

試験官 A : ですよ。例えば、厚さを 500mm くらいにして施工空間を確保するなどは検討されなかったのですか。

私 : はい、おっしゃるとおり、施工厚を増すことによってワーカビリティは向上すると思います。しかし、コストも増大するでしょうし、何より基礎が負担する死荷重が増加しますので、施工提案としては難しいと思います。(試験官 A : うんうんとうなずく)

試験官 A : 凍結防止剤は塩分、つまり相当な塩害が出ますよね、、、。(独り言のように)

私 : そうですね。(相槌を打つように)

試験官 B : 今回、セメント種類を変更したり、膨張材を添加したりといったことを提案されていますよね。一方で、これまで耐震補強としてさまざまな工法や技術といったものがあるわけですか。そういったことでいくと、今回のものは何か独自性がありますか。

私 : はい、確におっしゃるとおり、普通ポルトランドセメントは一般的なものですし、膨張材というものは今では珍しくない混和材です。しかしながら、通常は元設計のスペックをそのまま施工するといったケースが多く、また現実には多くのひび割れが報告されております。今回は、まず何が課題であるのかを明確にし、決して設計通りの仕様で施工するのではなく、種々のセメントや混和材の中から最適な組合せを行うことができたという点に独自性があると考えております。

試験官 B : 今後の課題として、膨張材の添加量を決定する際には、現場の鉄筋状況などを反映して行うべきと書かれていますが、これはどういうことですか。

私 : はい、セメントメーカーと協力を図り、通常膨張量試験ではなく現場の配筋状況や鉄筋量といったものを部分的に再現し、ひずみを測定するというものです。(ちょっと首を傾げた感じがした)

試験官 A : コンクリートの減水剤などは使用しなかったのですか。(単位水量の低減による方法は検討しなかったのか? と理解した)

私 : はい、単位水量の低減を図るため、高性能 A E 減水剤を使用しております。

試験官 A : あと、骨材に関して何か検討されましたか。

私 : はい、当地域では乾燥収縮の抑制効果が高いとされる石灰石骨材を使用しておりますので、そうした意味では安心できる材料でありました。(試験官 A : うんうんとうなずく)

試験官 A : 確か、秋田県〇〇〇市というところは〇〇川流域ですよ。まだ、そうしたよい骨材が採れるのですか。(この〇〇川流域という言葉で「ん?」と思った。ひょっとして当地を知っているのか?)

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

私 : いえ、地元産でなく、〇〇県産の骨材です。(うんうんとうなずく)
試験官 A : あと、型枠を撤去した後、表面に何か塗りましたか。(サービス質問と言える誘導的なもの?)

私 : はい、乾燥防止のため、すぐに被膜養生剤を塗りました。(試験官 A : うんうんとうなずく)

試験官 A : 平成 20 年度 3 月時点で目視確認を行った結果、新たなひび割れの発生はなかった、としていますよね。その後は確認していないのですか。

私 : 乾燥収縮のひび割れは約 2 年で約 80%が収束すると言われておりまして、今年の 3 月でちょうど 2 年となります。こうしたことから、ほぼ収束していると考えまして、その後は確認しておりません。

試験官 B : この業務を現時点で評価するとどうなりますか。また、改善すべきポイントはありますか。

私 : はい、今回提案した普通ポルトランドセメントと膨張材の組合せは現時点で評価しても有効な工法であると考えております。ただし、繰り返しになりますが、さらにひび割れ抑制効果を高めるためには、配筋状況、鉄筋量、打設時の外気温など、膨張材の効果に影響を及ぼす要素を施工に際する実験に反映させていくことが重要であると考えております。

試験官 B : 耐震補強の工法という面ではどうですか。

私 : 工法としては、コンファインド工法、繊維接着工法、鋼板巻立て工法などもありますが、コスト的には RC 橋脚巻立て工法が安価となります。しかし、河積阻害など制約となる条件もありますので、全体を踏まえた上で工法検討をしていく必要があると考えております。

試験官 A : 今後、社会資本整備のリニューアルというマーケットがどんどん膨らんでいくと思うのですが、そこで第一に考えなければならないことは何だと思えますか。

私 : はい、私自身維持管理フェーズに携わっておりますので、リニューアルの重要性については痛感しております。リニューアルにあたって第一に考えなければならないことはその手法ではないか、と思えます。例えば、アセットマネジメント、予防保全などの手法を確立・活用していくこと、またこれらを担う人材育成も重要だと考えます。

試験官 A : 技術の伝承をするために、普段どういったことをされていますか。

私 : はい、弊社でも優秀なベテラン技術者による技術の伝承を促進するためにいろいろと運動を実施しているところであります。上司に対しては、OJT や OFFJT などの充実をして頂くよう要望を出しております。

試験官 A : あなたがコンサルタントに勤務する技術者ですので、少々きつい質問かもしれませんが、設計施工一括発注が拡大してきていますよね。

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

ゼネコンなんかはすべて自社で実施することができるわけです。そこで、あなたの会社のようなコンサルタントは今後どうあるべきだと考えますか。

私 : はい、おっしゃるように、ゼネコンさんは自社に技術研究所などを保有しておりますし、技術もあるので、問題ないかと思います。私たちコンサルタントが行うべき行動としては、中堅ゼネコンさんでありますとか、地方の建設会社さんとの連携を深めていくべきと考えます。

試験官 A : 現在の総合評価落札方式では、企業が工事を受注したために、例えばコンクリート工事にコンクリート主任技士をつけるなどと過度の技術提案が行われていますよね。これには当然コストがかかります。そういうことで、採算が悪化したり、受注が思うようにいかないということで深刻な問題になっています。こういったことを踏まえてどうあるべきだと考えていますか。

私 : はい、確かに技術提案を行うのは受注企業側です。しかし、この問題は受注企業よりも発注者側、つまり入札制度を改善していく必要があると考えております。ですから、このような視点で述べさせて頂いてもよろしいでしょうか。

試験官 A : はい、結構ですよ。

私 : 現状では、技術提案として要求するニーズとして、例えば安全管理上留意すべき事項や品質管理上留意すべき事項などと非常に抽象的なものが多くございます。(試験官 B : うんうんとうなずく) ですから、まずは発注者が本当に配慮してほしい事項、条件をより明確にして、提示することが重要だと思います。そうすることで、企業が行う技術提案もよりクリアになると考えます。また、過去の企業の実績、技術者の表彰などの実績、さらに資格などの評価ウェイトを大きくすることも有効であると考えます。(試験官 A : うんうんとうなずく)

試験官 B : 現在、あなたは発注者側の立場に立ち、業務を行われていますが、発注者の技術力低下というものはどう考えますか。

私 : はい、発注機関における職員の人数の削減が続いている一方、行政マネジメントをはじめ、各種マネジメントの重要性が増しており、発注者自身が直接現場に立ち会ったり、設計に携わったりという機会が減っていると感じています。こうした状況から、確かに技術力低下というものは否めないとも考えております。ですから、私自身がそうですが、民間の技術力を活用したり、CM 制度を拡大したりと発注者のサポート体制を確立していくことが重要であると考えております。

【技術士制度の認識等】

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

試験官 A : では、技術士制度について質問します。技術士の 3 義務 2 責務とは何ですか。

私 : 義務として、信用失墜行為の禁止、守秘義務、名称表示の場合の義務の 3 つがあります。責務として、公益確保の責務、資質向上の責務の 2 つがあります。(試験官 A : うんうんとうなずく)

試験官 A : あなたはどういった資格をお持ちですか。

私 : はい、1 級土木施工管理技士、1 級舗装施工管理技術者、技術士補、コンクリート診断士を取得しております。(おお、コンクリート診断士ですかあ、と独り言のように)

試験官 B : 少しはずれますが、あなたの会社では設計業務もされるのですよね。

私 : はい、本社に設計部署がありまして、設計業務を行っております。

試験官 B : あなたがやられている業務は施工管理ですよね。一つのアプローチとして、自分たちの会社で設計した業務を、施工管理していくといったことを想定した場合、どう考えますか。

私 : はい、設計思想であるとか、プロセスの理解が容易となりますので業務の合理化・効率化が図られると思います。

試験官 A : ご自宅は〇〇〇市だということですよ。あ、ここからは雑談なので。(笑)

私 : はい。

試験官 A : 昔、住んでいたことがあるんですよ。懐かしいと思っていました。

私 : あ、そうですかあ。

試験官 A : そうということで、口頭試験を終了します。

私 : 本日はありがとうございました。

私は、手荷物を持って、ドアのところで再度頭を下げ、部屋を出た。やった！終わった！！嬉しさのあまり、自然と早足になる。エレベータに乗り込み、時計を見る限り、試験時間は約 35 分程度だったようである。

まずは、妻に電話した。「多分大丈夫だと思う」と。続いて、試験前にお会いしたバルさんに電話をし、「終わりました。バルさんも頑張ってください！今日はお会いできてよかったです。」とお伝えした。

平成 21 年 3 月 6 日

いよいよこの日がきた。口頭試験の合格発表日である。ガイダンスの言葉の“あや”もあり、入社前に可否を確認することができなかった。結局、入社してから、文部科学省、日本技術士会、官報などの HP をチェックいたところ、官報で一番早くアップされた。建設部門、、施工計画、施工設備及び積算、、と。仙台は F だから、、、ある！！あるどお！！合格だあ！！これで技術士だあ！！！！

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

まずは、妻をはじめ、家族へ報告した。続いて、PMPさんとHeroさんへ電話をした。皆から「おめでとう!!!」の言葉を頂いた。さらに、ブログへ合格の報告をエントリーしたところ、多くの方からお祝いコメントを頂いた。つくづくこの合格は多くの方のお力添えでかなったものであると感じた。こうした方々に、この場をお借りして改めてお礼を申し上げたい。

皆さん、ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。

平成 21 年 3 月 7 日

早速、合格通知が届いた。全項目に“○”がついているのを見て、改めて合格を実感した。

－ 以上 －

Cochtaro's 受験体験記

【技術士・コンクリート診断士】

◆ おわりに

最後まで読んで頂き、ありがとうございました。

ところで、一段落した今、一つだけやり残したことがあると考えていました。それは、いったい資格取得にいくらかかったのかという管理です。今まで家族に迷惑をかけてきた者として、支出をしっかりと管理し、その結果を説明すべき責任と義務があると考えました。

そこで、あくまで概算ですが、以下の表にまとめてみました。

表：支出一覧

費目	金額	備考
技術士	477,000	
各種講座	180,000	口頭模擬含む3講座
文献・書籍	50,000	
試験費用・旅費等	247,000	仙台×3回、東京×2回
コンクリート診断士	167,000	
文献・書籍	40,000	
試験費用・旅費等	127,000	仙台×2回
総計	644,000	

2つの資格取得に要した金額の合計は、644,000円でした。決して少ない金額ではありませんが、私の技術レベルもありますし、さらに私の場合は旅費というのも大きなファクターとなるので、こんなものかなあと考えています。

ちなみに、会社からの負担金は一切頂いておりません。今後は、資格手当として、27,000円/月を頂けることになっております。単純に資格手当だけで計算すると、644,000円/27,000円≒24ヶ月となり、約2年でカバーできるということになります。このほか、コンクリート診断士としての業務報酬、2つに資格による経済的には表せない社会的信用の向上など、得るものは大きいと考えています。

今後は、業務に対してより真摯に取り組み、自己研鑽を積みながら、総合技術監理部門を目指したいと考えています。

さいごに、この体験記を読んで疑問に思ったこと、ご感想やご意見などありましたら、メールを頂ければ幸いです。私なりの答えを返信させていただきます。

平成 21 年 3 月 11 日

コチタロ

coch77miz@gmail.com